



マッスルスーツを背負って介助作業を体験する職員

入善

入善町上野の特別養護老人ホーム・おあし

す新川で28日、介護ロボット説明会が開かれ、職員は介助作業中の腰への負担を軽減する「マッスルスーツ」の使い方学んだ。

同所の社会福祉法人・おあしす新川は本年度の県介護ロボット普及促進モデル事業に採択され、東京理科大学ベンチャー企業・イノフィス(東京)が開発したマッスルスーツ9台を導入する。重い

介護を補助 負担軽減

特養ホーム 介助スーツ導入
おあしす新川

物を持ち上げたり中腰姿勢を支えたりするのに役立つという。

同社員がリュックサックのように背負って使用する方法を実演。空気を入れるだけで利用できるため、電気のない場所でも支障がないことなどを説明した。同ホームの職員たちは実際に装着し、椅子に座った人を引き上げる動作を試していた。今後、こういった介護場面でより有効かを試行錯誤していく。